



特別  
千12  
3643  
192





筑山庭造傳拔出





目録

- 一 松の植やうの事
- 一 竹を植かゆふふうきき月日乃事
- 一 松の植やうの秘傳
- 一 松既ふ植んと欲する或生じを法
- 一 竹を殖りたる法
- 一 接木さし芽の事
- 一 杉苔植やうの事
- 一 灌花法

梅若敷太郎  
昭和五年五月廿日  
梅若重氏  
寄贈



- 一 菓 落さず法
- 一 諸木をぬとくする法
- 一 諸木を毛虫つらさぬ法
- 一 石燈に糞并ニ手洗鉢等早くたべやう傳
- 一 池より蛙を放り奉
- 一 泉水の臭をとぬふ取さぬ法
- 一 金魚をと事ゆふ法
- 一 たき土乃泉ある臭を去る事

追加 石の諸品を奉

松の植やう事

松を移し種ふるよ事乃社日あふ古哉根り  
つちて栽まば百本移して百本あぶらよくそごのこ

竹を植やう事

竹を植やう事六月廿日植へばうじといふ事

ちの

松の植やう事

松ハ二月に植やう事。湿氣を嫌ふ故に下へ  
炭の粉、木灰、糞を入。根へサ弱を入植へし。



川せん茅まうをせん煮せんりさま冷さましかけてよし

松しょう既も小こ枯かれかれと欲ちまら成せい生せいす法

松しょうをぐにいろ煎せんりと欲ちまら成せい生せいす法  
乃の分ぶんをころのこぎりをおしつて挽いきかけて其そのいきめくをころめて  
巻まきて膏こうをまじらせてものことくく樹じゆへい但たあらわらぬ根  
ふさいれいのうらびにかくつとくくはれがせらる生せいかへりまさき出で  
少すく勢よくちまらぬ是をまめ秘傳ひでんの法をしり

竹たけをまいりさらる法

- 碇砂いかりすな 二十文 研ひ
- 碌ろく礬らん石いし 三十文 研ひ
- 膽礬たんらん石いし 二十文 研ひ
- 石灰せっかい 五文

右みぎ調てう合がうしのよそ和わし竹ふ何あるを紋を點じ乾とは時ときあらわるを斑紋はん自じ然ぜんと出さふがことし

接つぎ木きさし芽めを糸

- 葉あは葉は藿くわ香かう 五文
- 蓮れん肉にく 五文
- 人じん参さん 五文

右みぎ之の味あじ粉こなをまじらせてまじらせてき接つぎ穂ほのそぎめあらぬれはいく接合あひをまじらせて又またさし芽めを切き口をあらわりてまじらせて根をおろしてまじらせてあらり

杉すぎ苔こけ極ごくやい乃の事こと

杉すぎ苔こけ成せい極ごくるふい下地ちの土をかきおろしておろしげおきこを



上へ杉苔を、ゆせてよく踏付き上へ土をぬきかけ  
て日かき乃時折くみをもそげばよくほくちなり

催花法

馬の糞或は浸し流せば三四日あして開くべき  
花もその翌日よくほくちなり

菓落ざふ法

社日ふ菓のなる樹下を春バ糞を絡ぶ中  
して落る中を又實を絡ざふりと右乃ど  
しく能くおわちなり

諸木をぬくまゝる法

諸木澁ふとくほろふは取ふいくれも切目をつけおく  
ぬしぬとくまゝるなり

諸木ふ毛虫つらざる法

諸木ふ毛虫つらざる法は、鯛のかりらふぬるびしを  
筆の鞘ふ入る。そ木ふいくれとりさけおく。  
毛虫つらじ

石燈籠並に洗鉢等早くたべやう傳

新変石燈籠と洗鉢等をよくたべやう石ふ糞をぬり



何れ侍小  
山こぼつ  
付れは若  
付れは若

其とへ落葉錢多く知りあけて捨おくべし。落霜おき落  
葉朽く後、白苔つきたくすは事妙あり。若苔を汁  
くろふハ米泔乃渣をさつくかられはうぐ苔蒸し。又  
蝸牛を碎き其汁を石ふそりつけ木陰におき切し  
水を洒ぐべし。白苔見事に生たくぬるすなり

池小蛙を放し事

山城井の蛙ハ鳴声たつとくくくそやあましくかゞび。  
多く蛙乃鳴くやうほしきふハ井の蛙を一疋捉へ  
来り放せば糸の蛙鳴やむ事妙し

泉水水魚を鮎取さばる法

胡椒を紙ふ包こ池乃四方ふ立おくへし。又帽皮  
といふもねを硝子の渣利乃うらふ入。泉水のよに  
つり並べし。鮎来るをさあし

金魚成事り法

金魚をたまらふ法ハ、もろくうづきといふ虫を喰はせじ。  
もろくうづきをちやうハ、其虫多くほるふを泥をまふ  
て。尾の中へ入。半日ほど目ふかし。扱世泥を赤あけ  
んまじ。虫一処へあつまり居るなり。是をとりて金魚を



まらふべし。蜆乃肉をとりにておろすまらふべし

たき土の泉あり魚を育つる事

くき土乃泉ありはどらんより魚を入るは石炭  
の氣あるゆゑ魚そそぐはなり。二十日も経て後  
く水をぬく後魚成入るし。たき土をくく時  
あま石乃平らあるはくき入るは魚く保川あり。石  
壘を横る埋て恋べし。魚源またあり。鯉といふ魚は  
育ちかぬるものあれども。大きなるあま石を中へ  
おく時より育川に。浅き泉あり。くき者と共に魚  
そそぐは。あまをかゆるふは半分。種づあまをぬくは。智へし。  
皆かゆまは。魚死するは。極く雪中などふは。小き  
泉あり。おろひをまらふべし

追加

石燈籠より手洗鉢あり。石は。大和國濟野石を以て第一  
の石とす。丹波國乃石を第二。山城國白川石を  
第三。近江國木戸石を第四。其外自然  
石は。大のなせる奇物。其外諸國の石。海石あり。云











